

# ガスを支える

## フロンティア企業

35

(随時掲載)



橋本社長

協成(橋本佳己社長)は、ガス用配管機材メーカーだ。ガス事業に不可欠な配管資材やバルブ(弁)、ガバナアの生産・販売、新工法の開発、メンテナンスなどを通してガスの安定供給に貢献している。

1947年に大阪市西区で創業。鉄管ニップル、ガス用バルブ・ガバナアなどを生産し、大阪ガスをはじめとした都市ガス事業者との取り引きを広く、業績を拡大させていった。

転機となったのは、60年代に防食鋼管の先駆けとして、硬質塩化ビニル外面被覆鋼管を国内で初めて開発したことだ。

### 協成

当時は、埋設管にニューレンスフレキ管などの新製品の開発に着手。全国に営業拠点を構え、営業網を拡大し、キーロンスリーズとともに普及拡大を進めた。

93年にガス用埋設鋼管の遮断弁として、全溶接型直埋式スチールバルブ(弁)を開発した。剛性が高く、鋼管と同等の信頼性を持ちながら、軽量化でコンパクト設計という特長を持つ。100A、

図っていたが、腐食が発生していた。新開発の鋼管は、塩化ビニルを被覆させたことで長期間の使用(Keep Long)が可能となった。「キーロン」シリーズと命名。埋設管の取り換えコスト、メンテナンスコストを低減する鋼管として全国の都市ガス事業者採用され、「キーロン」ブランドを確立した。

600Aまでラインアップをそろえ、全国の100社を超えるガス事業者を採用されている。

### 震災後に需要増加

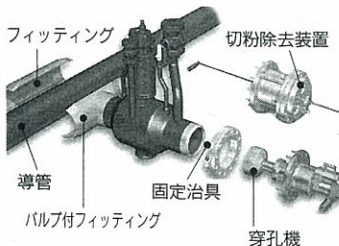
これまで培ってきた配管機材開発のノウハウを生かし、都市ガス事業者との共同開発に積極的に取り組んでいる。

# ガス安定供給に貢献

## 事業者と共同で新工法



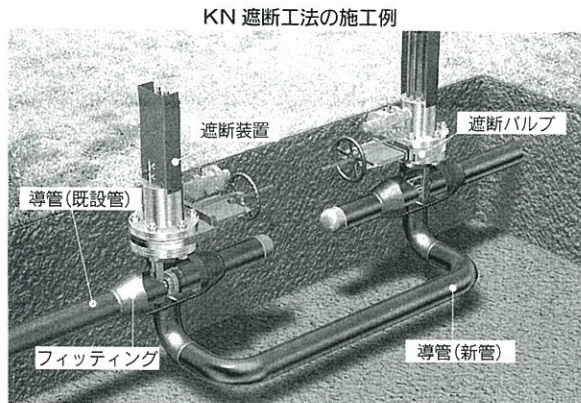
全溶接型直埋式スチール弁



KN分岐工法



KN分岐工法の施工現場



KN遮断工法の施工例

日本ガス協会、習志野岐部分を包み込む部材)として、全溶接型直埋式多喜ガス、静岡ガス、広島ガスの7者で協力し、「KN分岐工法(活管分岐バルブ工法)」を開発。燃料転換するために中圧ガス鋼管を分岐する際、ガス供給を継続しながら分岐できる。フィッティング部材(鋼管の分

開発した。上下水道、通信用ケーブルなどに近接するガス埋設管を移動する際、新開発の遮断装置を使い、新設管へのガス供給を継続しながら既設管の遮断、切り直し施工が容易にできる。

さらに、スチール弁を遠隔で開閉させるための電動アクチュエータ(駆動装置)を開発した。弁の本体と通信部を分離させたことで、防爆構造を不要とし、小型・軽量化を実現した。日本ガス協会、習志野市企業局、武陽ガス、大多喜ガスの5者による共同開発。

東日本大震災の発生以降、地区ブロックの細分化を図る都市ガス事業者へ納入した。開発3件はいずれも同

協会が技術賞を受賞した。現在、全国に18営業拠点を構え、地域に根差した営業を展開。バルブ、ガバナアのメンテナンスは、子会社の協成エンジニアリングが担当し、製品を安心して継続的に使用してもらうための体制を構築した。

自由化時代を見据え、製品への需要増加も想定している。成田芝山工場と長野工場での設備増強を決め、播磨工場では生産体制の見直しを進め、増産体制を整える。「生産体制の強化を図り、品質の向上に努めること」が、ガスの安定供給のための当社の責務だと思っている」と橋本社長は語る。技術講習会を随時開催し、製品を安全・継続的に使用してもらうためのアフターサービスにもさらに努めている。

※この記事は発行元の許可を得て本ページに掲載しています。記事の著作権等は発行元に帰属するものであり、当ページより転載又は無断使用することを固く禁じます。